



全日本グランドソフトボール連盟 会報 第12号

第12号 平成28年10月22日発行
発行者 全日本グランドソフトボール連盟
渡辺 照夫
事務局 〒457-0865 名古屋市南区氷室町20-2
TEL 052-692-3711
<http://gurasofu.web.fc2.com/>
編集者 広報部長 清田 郁也

巻頭言

全日本グランドソフトボール連盟 会長 渡辺 照夫

連盟の活動にご理解とご協力を頂きまして熱く御礼申し上げます。

今回の会報第12号は、連盟の最大事業であります第17回全日本グランドソフトボール選手権大会の報告、連盟活動報告と第16回全国障害者スポーツ大会（希望郷いわて大会）への参加チームの紹介を中心に発行いたします。

優勝旗授与について

全国障害者スポーツ大会の優勝旗を全国盲人福祉大会（青森大会）において、紀の国わかやま大会で見事に初優勝を勝ち取った広島県視覚障害者福祉協会の代表者に竹下日盲連会長より、賞状と優勝旗の授与が行われました。広島県グランドソフトボールチームのみなさんおめでとうございます。



熊本震災義援金について

4月に発生した熊本震災で被災された熊本県グランドソフトボールチームに対して第16回全国障害者スポーツ大会地区予選会の会場内に熊本地震の募金箱を設置して、義援金

を募集しました。

この義援金は、熊本県のグランドソフトボールチームが一日でも早く、グラウンドと一緒にグランドソフトボールが出来るようにとの願いを込めて行いました。

選手は勿論、大会役員、審判員、ボランティアの皆さまから温かいご支援を頂きました。ありがとうございました。

義援金明細は、以下の通りです。

東北地区	44.149	中国地区	31.779
関東地区	54.000	四国地区	34.500
北信越地区	13.090	九州地区	9.800
東海地区	14.112	中日本大会	27.152
近畿地区	10.707	九州チーム	122.500
合計		361.789	



熊本県からのお礼

全日本グランドソフトボール連盟会長並びに役員、関係者の皆様
全国各グランドソフトボールチームの皆様

熊本県グランドソフトボール協会 会長 森 等

この度の熊本地震被災に際し、全国のグランドソフトボール関係者の皆様より、心暖まる励ましのお言葉や義援金を頂き、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

一連の地震発生から月日もたち、余震の回数はかなり減ってまいりましたが、被害は益城町を中心に、隣接する熊本市、西原村など広範囲に広がっており、復旧・復興には、まだまだ時間がかかるものと思われます。

熊本県グランドソフトボールメンバーには、ケガなどはありませんが、仕事が出来なくなり故郷へ帰った人や、県外へ避難した人、家が住めなくなり別の場所を探している人など、被害の状態はさまざまです。完全に元通りの日常を取り戻すには、だいぶ長い道のりになりそうだと感じています。

このような状況があり、今年度は九州地区大会への出場をやむなく断念いたしました。また、全日本連盟の渡辺会長はじめ九州地区の皆様から、全日本選手権大会への参加を薦めていただきましたが、こちらはまだ生活の不安定さ、家庭を離れることの不安などもあって、大変申し訳ありませんが辞退させていただきました。皆様の温かいお気持ちにお応えすることができず、本当にすみません。

こうした現状ではありますが、皆様からの応援もあり、少しずつチームの活動を再開していこうとしています。まずは、毎年本県で開催している「火の国杯争奪グランドソフトボール大会」です。この第21回大会を予定通り9月25日（日）に実施いたします。西日本地域のチームには、資料をお送りいたしますので、是非、ご検討下さいますよう宜しくお願い致します。私たちが恥ずかしい試合にならないよう、しっかり練習したいと思っております。そして、来年の九州大会では、この逆境に打ち勝って、対戦相手にも打ち勝って、きっと優勝する、と決意を新たにしているところです。一日でも早く、私たちの躍動する姿をお見せできるようがんばります。

頂きました義援金につきましては、被災したメンバーへの援助や、損失した

用品の購入等にに使わせていただきたいと思います。全国各地域の大会等で集めていただいた皆様の励ましの結晶です。大切にに使わせていただきます。

最後になりますが、皆様の益々のご健勝、ご活躍と、全日本グランドソフトボール連盟の益々のご発展を祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

平成28年 6月25日

G-handsについて

読売巨人軍から社会貢献活動「G hands」の一環として、「ジャイアンツ・ファンフェスタ2015」の行われた11月23日に、寄付の贈呈式を東京ドームで行われました。全日本グランドソフトボール連盟に、G hands ロゴをあしらった特注のグランドソフトボール用試合球200球を、長野久義選手会長より贈呈をうけました。G hands ロゴボールは、全国の盲学校と社会チームへ配布しました。



第17回全日本グランドソフトボール選手権大会で、巨人軍の元内野手・古城（ふるき）茂幸さんが始打式に登場しました。読売巨人軍の社会貢献活動「G hands」では、昨シーズンのヒーローズプレートのオークションで得た収益の一部で、全日本グランドソフトボール連盟に試合球を贈りました。そのボールを使用して、今



回の大会が行われました。試合開始前には大雨が降り開催が危ぶまれましたが、エキシビションとして選手によるホームラン競争の後に、古城さんが始打式に登場すると雨は小降りになりました。練習なしで打席に入った古城さんは、初球を空振りしてしまったものの、すぐにコツをつかみセンター前へきれいなヒットを放ち、大歓声が起こりました。始打式後、たくさんの方が「ジャイアンツのファンです」と古城さんに声をかけ、握手をしたり、写真撮影を行っていました。古城さんは「ボールが速くてとても難しかったけれど、楽しかった。また機会があれば参加したい」と振り返っていました。

第17回全日本グランドソフトボール選手権大会を終えて

平成28年9月17日から19日にかけて、悪天候にもかかわらず皆様のご協力によりまして、開催することが出来ました。ありがとうございました。

今年は、クラウドファンディングを利用して台湾チーム招待することができました。

台湾チームは、全盲4名、弱視2名、ボランティア8名、幼児1名という構成でしたのでチーム編成が困難となりましたが愛知県チームの皆さんのご尽力で岩手県チーム、広島

県チームとの対戦が実現しました。これは、グランドソフトボールの歴史を変える第一歩となりました。

また、台湾の視覚障害者の野球ビーボールの体験会も実施することができました。

全国各地から名古屋市に集合して頂きました選手の皆様、審判員の皆様、ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

皆様のグランドソフトボールに懸ける思いを肌で感じ、これからの運営の参考とさせていただきます。



第17回全日本選手権 愛媛県 連覇達成！

今年は、台湾チームがまさに海外から台風を乗り越え初参加、レセプションから閉会式までフル参加し、大会を盛り上げてくれました。

また第16回全国障害者スポーツ大会希望郷いわて大会の出場チームが3チームも参加するなど、記念すべき大会となりました。

例年の一宮総合運動公園が、使用できないという難しい状況の中、金子事務局長の人脈により、小学校・中学校・運動公園が隣接する道德会場を確保でき、準備万端でしたが、長雨に祟られた9月を象徴するかのような台風の影響による悪天候となってしまいました。

予選リーグを60分ゲームによる短縮日程で実施、二日目はAグラウンドでの決勝リーグのみの実施、他の順位決定リーグ戦は抽選となってしまいました。

そのような中、台湾チームの活躍が目を引きました。愛知県チームのアシストを受けながら抽選勝ちもあって、6位と健闘しました。試合の中では、セカンドゴロ内野安打をもぎ取った全盲選手の俊足、センターからファーストへのワンバウンド送球、ピッチャーに挑戦した左腕の剛速球など、驚異の身体能力を随所に披露してくれました。

また台湾チームの行っている野球「ビーボール」体験もでき、大いに盛り上がりました。昨年に続いてエキシビジョンとして実施したホームラン競争ではホームラン2本ができたものの、3バウンド以内での公式ホームランは昨年に続いて「0」、またスピードガン競争は、降雨のため計測不能で実施できませんでした。

来年の好天を祈りながら終了しました。

試合結果は次の通りです。

【1日目結果】		
A 球場（大江中学校）	B 球場（道徳小学校）	C 球場（道徳公園）
岩手県 0 対 13 広島県 岩手県 6 対 0 台湾 広島県 5 対 3 台湾 順位 1 位 広島県 2 勝 0 敗 2 位 岩手県 1 勝 1 敗 3 位 台湾 0 勝 2 敗	九州選抜 9 対 0 埼玉県 九州選抜 0 対 7 三重県 埼玉県 0 対 3 三重県 順位 1 位 三重県 2 勝 0 敗 2 位 九州選抜 1 勝 1 敗 3 位 埼玉県 0 勝 2 敗	愛媛県 4 対 0 北信越選抜 愛媛県 7 対 0 滋賀県 北信越選抜 2 対 6 滋賀県 順位 1 位 愛媛県 2 勝 0 敗 2 位 滋賀県 1 勝 1 敗 3 位 北信越選抜 0 勝 2 敗
【2日目結果】		
A 球場	B 球場	C 球場
【1～3位リーグ戦】 広島県 13 対 1 三重県 広島県 0 対 3 愛媛県 三重県 0 対 0 愛媛県（抽選の結果 6 対 4 で愛媛県の勝ち）	※台風のため抽選による試合 九州選抜 棄権 0 対 7 岩手県 九州選抜 棄権 0 対 7 滋賀県 岩手県 3 対 7 滋賀県	※台風のため抽選による試合 北信越選抜 3 対 7 埼玉県 北信越選抜 6 対 4 台湾 埼玉県 3 対 7 台湾
【総合順位】		
優勝 愛媛県（2年連続3度目） 準優勝 広島県（ミラクルボンズ） 3 位 三重県 4 位 滋賀県（SHIGA フェニックス） 5 位 岩手県 6 位 台湾（TaiwanNBA） 7 位 埼玉県 8 位 北信越選抜 9 位 九州選抜 ※ 6 位、7 位、8 位は 1 勝 1 敗により得失点差による。		

●全日本グランドソフトボール連盟では、視覚障害者の代表的で歴史のある団体スポーツであるグランドソフトボールを広く皆様に知っていただき、視覚障害者の能力の高さを理解していただき、競技スポーツとしての地位を確立していきたいと考えております。

詳しくは、全日本グランドソフトボール連盟 facebook ページをご覧ください。

<https://www.facebook.com/ajgsba>

1971年1972年1973年1974年1975年1976年1977年1978年1979年1980年1981年1982年1983年1984年1985年1986年1987年1988年1989年1990年1991年1992年1993年1994年1995年1996年1997年1998年1999年2000年2001年2002年2003年2004年2005年2006年2007年2008年2009年2010年2011年2012年2013年2014年2015年2016年2017年2018年2019年2020年2021年



**第16回全国障害者スポーツ大会
（希望郷いわて大会）
出場チーム紹介！**

【岩手県チーム】



打撃自慢の強豪チームを相手に、エース小国を中心とした守備の堅いバックがいかに守り抜くかが鍵だと思っています。数少ないであろうチャンスに全弱が繋げ、長短打を絡めて、接戦を制して勝ち上がる・・・。

地元開催の希望郷いわて大会では、チーム全員が一丸となって真剣勝負をしますので、ぜひ岩手を応援してください。

【青森県チーム】



監督に工藤氏を迎え心機一転した青森県チーム。5年ぶりの地区予選大会優勝となりました。5年ぶりということは部員一人一人がそれぞれ年齢と経験を積み重ね、たった一つのプレーであってもそのプレーヤーの生き様を表現できるチームに仕上がっています。走攻守、すべてにおいて理想を高く持ちグラウンドソフトボール談義に臨む姿はまさしく青森ねぶたの勇者そのものです。今大会ではまず一勝を目標にチーム一丸となってがんばります。

【山梨県チーム】



ここ数年なかなか勝ち切れなかった地区大会。選手ひとりひとりができることをコツコツとやり続け、今年は運も味方に4年ぶりとなる全国大会出場を手にすることができました。みなで一緒に年を重ね、4年前と変わらないメンバーによる息の合ったプレーで挑みます。どんな戦いができるのか乞うご期待！

応援よろしくお願いします!!

【三重県チーム】



今年開催された「伊勢志摩サミット」の地よりやって参りました。ぎふ清流国体以来、4年ぶりの出場となります。

メンバーですが、20年前の広島国体初出場を経験している選手から、今年初参加の選手までさまざまです。

3年前に監督が変わり、新体制となった三重県チームですが、挑戦者のつもりで頑張りたいと思います。

そして、この希望郷いわて大会を楽しみたいと思いますので、応援よろしくお願いします。

【京都府チーム】



京都府は一人一人の力は大きくはありませんが、選手15名が一丸となり優勝を目指し、フェアプレイで全力を尽くします。

【広島県チーム】



地元広島は、カープの25年ぶりの優勝で大変盛り上がっています。

私たちもその勢いにあやかって、2年連続優勝を目指します。

神ってるプレイで大会を盛り上げますので、ご声援よろしくお願いたします。

【福岡県チーム】



途切れる事の無い打線、付け入る隙を与えない守りをモットーに、質の高い練習を積み重ねてきた我ら福岡エメラルドスネークスは、グランドソフトボールの魅力が詰まったプレースタイルで他を圧倒します！

九州代表の誇りを胸に、目指すは優勝！！

頑張るばい！

ビーブボール紹介

台湾チームが紹介、体験させてくれたビーブボールをご紹介します。

ビーブボールは野球の本場アメリカで生まれ、行われている視覚障害者の野球です。

プレイヤーは全員アイシェードを付け、全盲の状態で行います。守備側は6人で守ります。グラソフのポジションで考えますと、ファースト、セカンド、レフトショート、レフト、センター、ライトといった位置あたりに守備していました。

闘志をかき立てる台湾式ウォークライ！



台湾選手の打撃の様子



ボールはソフトボールに似ていますが、もう一回り大きく、大きめのグレープフルーツ程度で、ビーッと音が鳴るようになっています。バットは

ソフトボール用の金属バットです。攻撃側はバッター、ピッチャー、キャッチャーが同一チームです。打撃はソフトボールと同様で、空中を飛んできたボールを打ちます。味方ピッチャーがアンダースローで投げたボールの音を頼りに、微修正しながら打つのですが、素振りの段階から3人で息を合わせ、バッターは素振り通りに打て

るように、一定の高さとスイングスピードに気をつけます。キャッチャーは素振りを見て、スイング軌道上に合わせ、ミットを構えます。ピッチャーはキャッチャーのミットめがけ、バットにジャストミートするよう、正確に投げ込みます。走塁は打った後、一塁あるいは三塁延長線上にある音源に向かって一目散に走ります。ホームからの距離は33mです。

どちらの音源が鳴るかは、守備側が決めます。打者が一塁あるいは三塁方向の音源にタッチするのが早いか、守備側が打球をキャッチするのが早いかで、アウト、セーフが決まります。打者一人ひとりが勝負で、塁に残ってホームイン等はありません。想像していた以上に迫力がありました。特に打者の走力、ピッチャーのコントロールが大事と感じました。高齢化しつつあるグラソフ選手たちがビーブボールで台湾チームに勝利するためには、相当の走り込みが必要なようです。



モグモグの独り言 NO6

今年のおじさん達は、頑張ったね。

東京ドームへ行ってボールをもらったり、熊本のために義援金を集めたり、台湾チームを招待するためにクラウドファンディングをしたり、プロ野球関係では、ジャイアンツの古城元内野手に始打式をお願いしたり、希望郷いわて大会では、西武の菊池投手、日本ハムの大谷投手の写真を飾ったり、楽天のキャップを記念品としたりといろいろ頑張ったね。

これからもモグモグは、応援するね。

頑張れ、おじさん！頑張れ、おじいさん！！

編集後記

第12号は、「希望郷いわて大会」に向けて編集しました。

出場チームの皆さん、練習の成果が十分に発揮されますよう、お祈りします。

「視覚障害、泣き笑い」

(エントリーNo13)

名古屋市金山で行われたGS役員会の帰り道、予定の新幹線に間に合うように金山駅で自動改札を急ぎ通過しようとしていたK選手、赤ランプが点灯し、ドアに遮断されました。ちゃんと名古屋市内からH市内への乗車券を買っていたので、「急いでるんですが」と、すぐ様駅員に抗議、駅員さんは落ち着いて、切符を確認、優しい口調で「こちらは名鉄の改札です。JRの改札はお客様の左斜め前方30mぐらい先にありますよ。」と指さしではなく、口頭での丁寧な説明、まさに神対応でした。

きっと事務局長をはじめ、愛知県の皆様が数多く失敗してくれているおかげですね。

ありがとうございました。

i-kiyota@sky.megaegg.ne.jp 広報部長 清田郁也